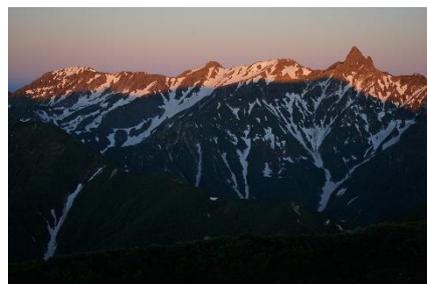


天溪の国内登山「2022年6月 燕岳から大天井岳」

太平洋沿岸に前線が停滞し、曇りや雨の日が多い梅雨時の6月、北アルプスは結構晴れの日があります。この時期、燕岳から常念岳、蝶が岳に続く稜線は日に日に残雪が溶け、太陽にきらめく連山からは夏に向かう大自然の躍動を感じます。夏至の昼間は長く、萌黄色に染まるダケ樺やカラマツの新葉、咲き始めた駒草やイワカガミ、ハクサンイチゲなど旬の高山植物、四方に聞こえる鶯の鳴き声、残雪が織りなす景色、風に運ばれる沢の音、運が良ければ孵ったばかりの雛を連れた雷鳥親子が私達を楽しませてくれます。そんな訳で6月29日～7月1日に山行を計画したところ、今年6月27日に観測史上最短で梅雨が明け、絶好のコンディションになりました。



(燕岳直下のメガネ岩)





※雄大な日没の景色です。左は燕山荘の玄関先で写した燕岳、右は中天井岳から写した大天井岳。



※孵化したばかりの雷鳥の雛達が暖を求めて親鳥のお腹に潜っています。

お花の時期を聞かれます。高山植物は短い夏を待ってましたばかりに一斉に咲き始め、そして秋風と共に枯れて行きます。色々な花が咲きそろうのは7月下旬から8月上旬にかけて。でも私は咲き始めのエネルギーに満ちたこの時期の花が一番に思います。



駒草



ハクサンイチゲ



イワカガミ

日本のコロナ鎖国も徐々に緩んできましたが、まだまだ不自由なく渡航が出来る状況では有りません。天溪が旅をするカナダ・バンフやフランス・シャモニ、はたまたキリマンジャロ、パタゴニアは既に欧米やインドからの旅行者でコロナ前の賑わいを取り戻し、一部の山小屋は満員との情報も届いております。国によりコロナに対する考え方に違いが有るのは別に、もう暫くの辛抱ですね。 海外旅行が再スタートした暁には宜しく願い致します。